

豊川市教育委員会生涯学習課
〒441-0292 豊川市赤坂町松本 250 番地(豊川市音羽支所内)
TEL:0533-88-8035 FAX:0533-88-8038

船山第 1 号墳の墳丘盛土確認調査について

1 はじめに

船山第 1 号墳(豊川市指定史跡)は古墳時代中期にあたる 5 世紀後半に築造された三河地域最大級の前方後円墳です。現在の墳丘は、築造当初の姿を留めていませんが、本来の古墳の規模は全長約 95m、後円部径約 58m、前方部幅約 62m、高さ約 7.5m であることがこれまでの調査で分っています。今回の調査に先立ち平成 27 年度に墳丘各所で実施した発掘調査では、前方部後円部とも 3 段の段築^{だんちく}で構成され、墳頂部及び段築の各テラス面には円筒埴輪列^{えんとうはにわれつ}が巡り、墳丘斜面には葺石^{ふきいし}が葺かれていたことが判明しています。また、古墳のくびれ部両側には三角形状に張り出した造出し^{つくりだ}が設けられ、北側の造出しでは家や盾形などの形象^{けいしょう}埴輪^{はにわ}を用いた儀礼行為が、南側の造出しでは笊形土器^{ざるがたどき}や瓢形注口^{ひさごがたちゅうこうどせいひん}土製品よばれる特殊な土器類^{いんしよくぶつきょうけんざいれい}を用いた飲食物供献儀礼^{いんしよくぶつきょうけんざいれい}が執り行なわれていたことが明らかとなるなど、本墳の性格を検討する上で非常に大きな成果が得られています。

今回の調査は、古墳の西側を通る都市計画道路大池線の拡幅工事に伴う事前調査として実施したもので、前方部の一部を横断するように墳丘の解体を行いながら、盛土の構築方法等の確認をしました。

調査は平成 29 年 6 月から開始し、調査が進むにつれ墳丘盛土の状況が徐々に明らかとなり、どのように古墳が造られたのかという築造過程の一端を解明することが出来ました。

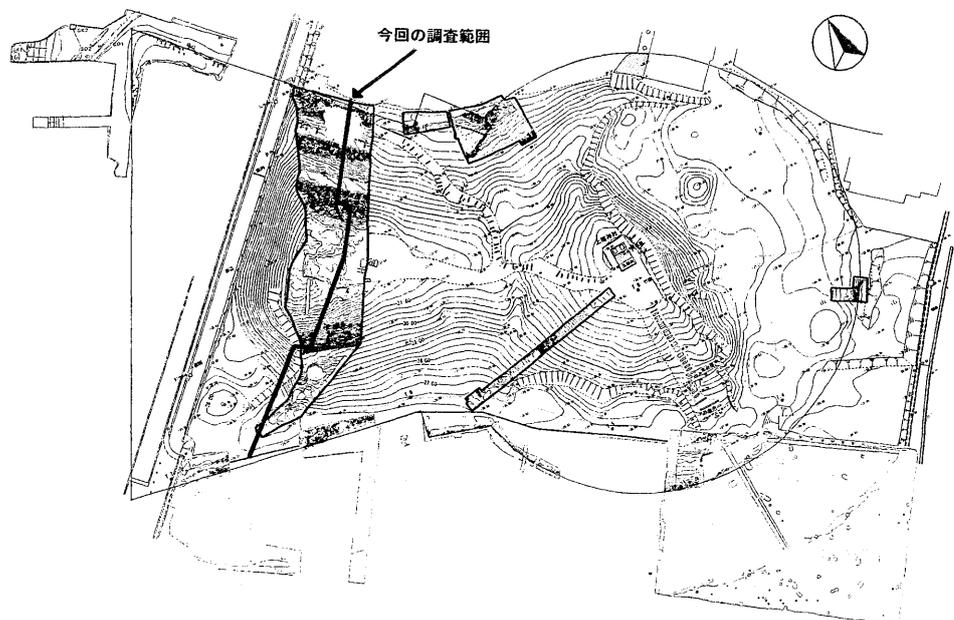


図 1 船山第 1 号墳全体図

0 20m
(S=1/1,000)